

平成27年度 第2回釧路市まち・ひと・しごと創生意見交換会（議事要旨）

日時：平成27年9月15日（火）午後6時00分～8時15分

場所：釧路市役所防災庁舎 会議室A

出席者：別紙 出席者名簿

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 地方創生と釧路市の取組について

(1) 国から示されている地方創生、及び釧路市の取組について

- ・事務局より、資料1「まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略」、資料2「釧路市の総合戦略・人口ビジョンの策定体制」、資料3「「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」骨子」に基づいて説明

(2) 釧路の人口問題を考える～若者を中心に（釧路公立大学 下山准教授）

- ・釧路公立大学 下山准教授より、資料「釧路の人口問題を考える～若者を中心に」に基づいて説明

参加者より質問等なし

4. 意見交換会

- ・下山准教授をコーディネーターとし、参加者にグループA（5名）、グループB（4名）、グループC（5名）に分かれてもらってグループワークを行い、C、A、Bの順に意見発表。

（○…参加者、◎…他のグループの参加者 ●…行政側）

○グループCより

仕事、環境、その他というテーマを絞ってディスカッションを行ったので発表・提案をする。

1. 仕事

- ・逆求人フェスティバルの開催

－働きたい、転職したい若者がブースを開いて、企業の人事担当者が各ブースを回ってヘッドハンティングするイベント。職業のミスマッチの解消を狙う。

2. 環境

- ・人とのつながりを感じられるようなイベントを開催する
- ・釧路は広すぎるため、人とのつながりを感じられないのではないかいっそ釧路を2分割にしてしまうという考えもありではないか

3. 若者が考える釧路の魅力は何か？

- ・満員電車に乗らずとも生活出来る車社会
- ・車で出かけても高速料金がなく、無料で駐車できるところが多い
- ・土地、家賃が安い、広い家に住める、庭付きのマイホームも夢ではない
- ・並ばなくても人気店に行ける
- ・競合が少ない
- ・有名人が少ないから、すぐ有名になれる
- ・野望や欲望がすぐかなう街
- ・何にもないけど何でも出来る

4. 今後、若者が釧路の中心的役割を果たすためには？

- ・若者が市長、市議になる
- ・釧路市が「若者の挑戦に優しいまち」と掲げる
- ・行政が設置する協議会や委員会に若者枠を設け、必ず若者に参加してもらうように義務付けをする
- ・期間限定で若者のみの組織を作る
 - ー本日のメンバーで組織を立ち上げ、行政が委託を行う
- ・市役所が年功序列ではなくて、若い管理職が居ても良いのではないか
- ・一人一人の若者の発想を求める前に、若者が憧れを抱くような若者のロードモデルを作り、そういった若者との交流機会を作っていくことを先にやるべき
- ・地域の大人が「大人」になるべきであり、若者を梃子に使うのではなく、若者の挑戦を後押しし、失敗等のフォローすべき

【発表に対する感想・質問】

- グループワークにおいて沢山の意見をいただいたが、特に一番盛り上がったところや、特に一番伝えたいところについて導き出すとき、何を中心に据えて考え、議論したのか。
- 釧路市の一つの問題点は、何も無いのではないかと、いうところであったが、何も無いところを逆手にとって考えてきたときに、何も無いから何でもできる、というような意見が出てきたと考えられる。

○グループAより

釧路市を「アンジェリーナ・ジョリーが住むまち」というまちにするという提案をする。若者が出ていくというのはどこの街でも同じことで、どこの街でもやっていることを同じようにやっても仕方がない。釧路ならではの文化や自然環境等をビジネスにすると考えるべきではないかという意見があった。

そこで、「ナツスズビジネス」と「ユキナシビジネス」という新しいビジネスモデルを構築する。

ナツスズは夏が涼しいから出来るビジネス。ユキナシは北海道で寒いですが雪が少ないということを利用してのビジネスである。人を呼ぶための施設を建設する等の実現性の低いものより、具体的に出来ることをすべきと考えた。

「ナツスズビジネス」や「ユキナシビジネス」というテーマでビジネスを思いついたという若者を釧路市は支援していくというものである。若い起業家を市が面接して補助金を出す等して、年収1,000万円、雇用100人を目指してもらおう。釧路市の支援の結果、若者が年収1,000万円稼いでいるとなれば、それに続こうとする他の若者も増えてくると思う。楽しいまちには人が集まり、人が集まるところには公共交通機関も整備され、遊ぶ場所も自然と増える。先に作るのではなく、すごい若者を集めることによって、中間層やその周辺環境も引き上げられるという発想。

ナツスズビジネスの例を挙げる。涼しい環境を活かした別荘地として、ここにアンジェリーナ・ジョリーが住む。そうすると周りがほっとかないので、他の有名人等も来て、世界から認められる別荘地となる。他に倉庫も良いのではないかと思う。東京等の暑いところでは腐ってしまうようなものを涼しい釧路で保管する。また、Airbnb等が最近流行っているので、これを取り入れるのも良いと思う。これはホテルが満杯のときに一般の人の部屋を借りあうものである。それに関連して部屋の掃除等の仕事も増える可能性がある。釧路の自然を活かしたカヌーや釣り、サーフィン等も良いビジネスだと思う。

ユキナシビジネスの例は少し弱いですが、氷が張るので滑らないグッズ、例えば滑り止め付の靴などの販売を販売する。北海道のどの地域でも氷が張るが、一番滑るまち釧路が滑らない物を作るというのがよい。

夏は別荘にアンジェリーナ・ジョリーが住むが、冬の寒い時期に釧路を離れると思うので、その空いている別荘に高齢者が住む。その人達に向けての健康ビジネスとして、湿原ウォーキング、または別荘ならばランニングマシン等もあると思うので、高齢者がそれを利用する。

氷ビジネスについて我々は良いものが思いつかないが、若い起業家で氷を利用して世界に打って出られるようなビジネスを提案してくるかもしれない。そこは市が支援して、そういう起業家を育てるということが大切だと思う。

【発表に対する感想・質問】

- 市が若い起業家に投資するという発想が面白い。それが成功すると雇用が増えて、市の税収も増えてという展開が良いと思う。

- ◎こういうビジネスモデルが出てくるということが、若者で行うグループワークの意味があるのかと思う。若者市役所というのを作るのも面白いと思う。
- ◎市役所の事業で、企業支援を20代や学生に行ってはいないのか？
- 年齢で限定はしていないが、企業したい人に資金を補助する制度はある。
- ◎他の自治体で若者限定の支援制度はあるか。
- あるとは思いますが、把握はしていない。
- ◎海外の大学ではそういう制度があるとよく聞くので、日本ではないのかと疑問に思う。

○グループBより

釧路に帰ってくる若者を増やしたいというテーマで議論した。若者に釧路を知ってもらいきっかけを作りたいということから、どの時期に帰ってくるかを考えたときに、お盆と正月だと思われる。また、若者の場合は、成人式等も考えられる。お盆と正月等に若者等が帰ってくることがわかっているのに何もしてこなかったのは何故なのか、という話になったので、その対策として考えた。まずは、これらの時期に帰ってくる学生や家族に的をしぼり、釧路の魅力、釧路の人と触れ合えるツアー組む。そのツアーの料金を安く設定する代わりに参加者にはツアーのモニタリングしてもらい、SNS等で情報を発信してもらいながらスタンプラリーをしてもらう。ツアーの行先30か所ほどには釧路の形をした顔ハメボードを設置しておき、ツアー参加者には必ずその顔ハメボードを使っている様子の写真を撮ってもらい、その写真と共に情報発信をしてもらう。その顔ハメボードの作成には釧路出身・在住の漫画家やイラストレーター、または漫画家志望者やイラストレーター志望者にデザインしてもらおう。これが釧路に帰ってくるきっかけにしてもらうというもの。その後、釧路を気に入って定住してくれる人達には定住補助を行う。その補助は一年間の食費補助や温泉無料等のメニューを10個程作り、定住者には一つ選んでもらう。まず、釧路に来てもらう、戻ってきてもらうきっかけ作り、そして定住への支援という2段階で行うというものを提案する。

【発表に対する感想・質問】

- 集中的に取り組む期間を設けて、地元に戻ってくる人等に働きかけることは重要だということに改めて感じた。

【下山准教授より感想】

参加者から出された意見で共通したものは、若者への支援が何らかの形であったほうが良いのではということだと思う。それは機会の支援、お金の支援、少なくとも若者が長期的に活躍できる支援が必要だということだと思う。

お盆や正月の帰省者の話があったが、経済学では実は逆の発想で、お盆や正月は沢山の人が帰ってきてお金を落とすので、違う時期にもう一回来てもらうほうがよいことが多い。

個人的に市役所にずっと言い続けていることとして、ふるさと納税に航空機のチケットを配るべきと言ってきているところであるが、お盆以外にもう一回来ることがあれば機会が2倍増えると思うので検討してほしい。

個人的な考えだが、釧路の魅力は何か、と考えたとき、地元の間が認知していない魅力と、地元の間が認知しているが地元以外の間が知らない魅力に対して、原因とその対策をすべきだと思う。地元の間が知らない魅力というのは山ほどあるが、ここに関してはお互いに共有すべき必要がある。

次に、若者中心的な役割を果たすためと言う点においては、今回のグループワークの全班で共通していたと思う。しかし、若者が意見を言わない、若者の意見が実行されない、という2点が問題だと考える。意見を言う機会の担保、意見が実行されて成功する担保というのが重要である。そういう意味でも、こういった若者の会議の常設化というのは、今日の参加者からの意見でもあったように必要であり、さらにこの会議の結果を政策に反映できるようなことがあっても良いと考えている。出来れば、この会議の2回目を開催してほしいので市役所で検討してほしい。

5. 閉会

(了)